

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立富士中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

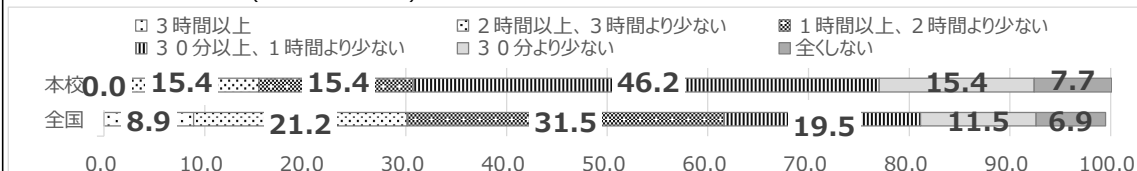
（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	76.9	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	69.3	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	92.4	92.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	69.3	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	69.2	79.0

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎自ら課題に取り組んだり、友達や周りの人と協力して課題解決に取り組む姿勢を持っている。
- 自分で考えを深めたり、振り返って次の学習につなげたりすることに課題がある。
- 約7割の生徒が授業時間外の勉強時間が1時間未満であり、学習習慣が身につけていない。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	76.9	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	77.0	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	69.2	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.3	91.0

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	77.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	61.5	72.3

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎将来に対する夢や目標を持って生活できている生徒が多い。
- ◎普段の生活の中で幸せと感じている生徒が多く、自身の生活の中で楽しみを見出している。
- 自己肯定感と自己効力感のさらなる向上や、他の人や地域・社会に貢献する気持ちをさらに高める必要がある
- 学校へ行くのが楽しいと思える生徒の割合が、全国に比べて少ない。

調査結果を受けて

【学校では】

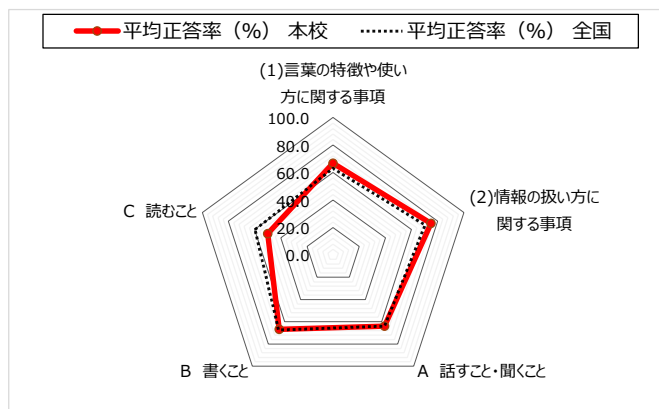
- 授業では、考え方を深める活動や自分の学びや学び方を調整する活動にさらに取り組むことで、「主体的な学び」を目指した授業を推進していきます。
- 生徒への伴奏支援をより意識して、自己肯定感や自己効力感を育てていきます。
- 学習と生活のプランニングと振り返りをする「ステップダイアリー」のさらなる活用を促して、学習習慣などを身につけさせていきます。
- 「学校に行くのが楽しい」と思えるように、学級活動等を通して生徒たちが自分たちで学校生活の充実度を向上させる活動を考え取り組んでいくことで、自分たちで作り上げることの大切さと喜びを感じられる環境づくりを進めていきます。

【ご家庭では】

- 学習時間が短いことに加えて、他質問よりゲームやスマートフォンの使用に割く時間がとても長いです。長時間の学習が何より大切というわけではないですが、子どもたちの夢や目標に対して自身の生活が適切かどうかを一緒に考え、自己調整する機会を持っていただきたいと思います。
- 自分たちが住む地域の良さを家庭でも話題にもらい、社会や人とのつながりの大切さについて一緒に考える時間を持っていたきたいと思います。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	66.7	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	75.0	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	63.9	63.9
	B 書くこと	66.7	67.4
	C 読むこと	50.0	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	75.0	72.7
短答式	52.8	55.8
記述式	38.9	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎知識および技能については、「言葉の特徴や使い方に
関する事項」「情報の扱い方に
関する事項」とも4ポイント程度正答率が高くなっています。国語科の「話すこ
と・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力
であり、普段から、漢字や言葉の学習などの成果が表れていると考えられます。

●課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率38.9%は、全
国平均正答率45.5%を下回っています。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 一	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる	91.7	84.3
1 三	単語の活用について理解しているかどうかをみる	91.7	85.4

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 四	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	41.7	52.7
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするかどうかをみる	25.0	38.9

調査結果を受けて

【学校では】

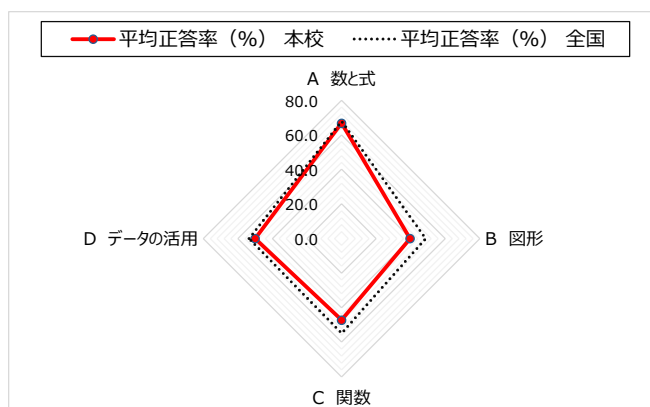
- 授業アウトプットのを工夫した授業を実施することで、表現する力を高めていけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 学習に取り組む習慣をつけましょう。繰り返し学習することで、学力が定着します。また、新聞のコラムを視写したり、タイトルを考えるなどの課題を出していますので、ご家庭でも話題にしながら取り組ませてください。
- 読書を大切にしましょう。いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。学校図書館や市立図書館富士分室に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	66.7	67.8
B 図形	39.6	48.7
C 関数	47.2	54.8
D データの活用	50.0	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	47.2	59.3
短答式	65.7	64.2
記述式	25.0	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 基本的な数学用語を理解し、考察の対象を明確に捉える力や表、グラフに関連して捉え、座標を読み取る力は概ね身に付いています。

● 図形の領域を苦手としています。また思考・判断・表現を問う問題での正答率が低い傾向にあり、特に根拠をもとに数学的に説明することに課題が見られます。答えを求めるだけでなく、自分の考えを相手に説明する経験をさらに積み重ねる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
6 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	83.3	73.2
7 (1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	100.0	75.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
7 (2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	16.7	33.9
8 (2)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	16.7	46.1

調査結果を受けて

【学校では】

○ 根拠を示して説明する活動を日常的に取り入れ、思考力・表現力の育成を図ります。

○ 図形の証明に関しては、穴埋め問題から始め、証明の流れを整理するとともに、筋道を立てて、証明することができる力の育成を図ります。

【ご家庭では】

○ 「なぜ、そう考えたの？」 「どうしてそうなの？」 と、お子さんの考えを聞いていただく機会を増やしていただければと思います。
正解を求めるだけでなく、自分の言葉で説明する経験が思考力や表現力につながります。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	486
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.3 / 2	2.0 / 5	0.5 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題番号	技能	出題の趣旨
1	聞くこと	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる
7	読むこと	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題番号	技能	出題の趣旨
10 (1)	書くこと	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる
19	話すこと [やり取り]	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

◎「聞くこと」「読むこと」のような情報を受け取り、その内容について正しい答えを選択する問題においては正答率が高く、特に日常的な話題に関しては、情報を正しく受け取る力が身に付いている。

●「書くこと」「話すこと」のように自分の思いや意見をアウトプットする力を身に付けることが今後の課題と言える。特に社会的な話題に関して、自分の考えやその理由を表現することが苦手である。

調査結果を受けて

【学校では】

- 「話すこと」「書くこと」のアウトプット活動を毎時間取り入れ、自分のことを表現する力を伸ばしていきます。初期段階として日常的なことを即興で話せる・書けることを目指し、徐々に社会的な話題に対して自分の意見を述べる・書く段階へと移行していきます。
- 実際に話す・書く活動を行っていく中で生まれる疑問やエラーを解決・修正し、それを何度も繰り返しながら少しずつ表現の幅を広げていき、アウトプットへの抵抗を減らし、自己表現の喜びを味わってほしいと思います。

【ご家庭では】

- 「書くこと」の力を身に付けるために、教科書の重要語を何度も書いて覚え、実際に短い日記や意見文を書くことで、発信語彙(アウトプットの際に実際に活用できる語)を増やしていきます。
- 社会的な話題に対して自分の考えや理由を述べるには、日頃から問題意識を持ち自分自身の考えを持つことが大事になってきます。どのようなことが今現在社会問題となっているのか、ご家庭で一緒に話題にしてほしいと思います。